



# ネットワークたより

No.68

関東建築ネットワーク  
2021年7月25日 第68号  
編集責任者 染谷 等  
千葉県船橋市小室町901-C-19-401  
TEL 0120-800-155  
FAX 047-460-9039

ホームページ [関東建築ネットワーク](#) [検索](#)

## 座談会出席者



染谷建築設計事務所  
所長 染谷 等



甲田建築事務所  
所長 甲田直己



DEN設計工房  
所長 酒井行夫



東葛企画設計事務所  
所長 野田耕蔵

甲田・まず感じたことは、生産性や効率を追求してきた社会が、コロナパンデミック(世界的規模の大流行)に弱かったことです。コストカットや小さな政府に表される新自由主義の目標が、人間社会にとってふさわしくない脆弱なものだとわかりました。公共性、助け合う社会が大事だと思いましたが、約30年間のグローバル資本主義の反省を、コロナを教訓にして、アフターコロナの時代を創っていききたいと思います。染谷・この1年半の間、

感染対策が叫ばれ、三密対策・マスク着用や手洗いが推奨されています。これらの対策は、うつらないだけでなく、うつさないという、他人への思いやり、でもあります。まさに家づくりでも一番大切なことです。家で快適に過ごせる事は必要なことですが、そこで生活すること、その家がそこにあることが、地域にとって大事であることを、改めて気づかされました。酒井・感染拡大を防ぐために人の接触を抑制することが求められ、否応なく

酒井・私たちの社会はここ100年ですさまじく発達して、それまでの自然の素材を使った生活から、石油などを利用して、便利で豊かな生活になりました。しかし、それは大量のゴミを出す社会でもあります。今や大気汚染による地球温暖化、異常気象、マイクロプラスチックによる海洋汚染等々、地球環境が危機に陥っています。このままでは人類の存亡にかかわることから、国連で持続可能な社会を目指すSDGsが提起されたのです。

甲田・今、ウッドショックと言っている材木の入手困難な事態が起きています。コロナ感染症で生産と輸送の停滞や、米国の住宅ブームが原因ですが、根本原因には、日本の木材自給率が31%ということに問題があります。持続可能な社会を作る課題は長い時間、これからはと取り組む課題ではないでしょうか。カーボンニュートラル(二酸化炭素の排出をゼロにする)を2050年までにという問題も菅首相を好きか嫌いかにかかわらず、前向きに具体的に取り組まなければならない問題です。

野田・建物の構造体の強さなど、安全がなければ安心して住めませんから、万が一の災害でも家が命と財産を守ってくれるように、設備機能の利便性だけではなく耐震性・防火などは第一優先です。次に間取りなどの使いやすさ、漆喰・無垢の板材など自然素材をとり入れることで健康に暮らせ、地球にやさしい街づくりにもつながります。それが心地よい住まいとなつて、愛着の持てる家となり大切に住まわれることで、結局長持ちする家となると思います。

甲田・住宅の建て替えまでの平均寿命は、日本30年、アメリカ55年、イギリス77年(国交省IPD)と日本の短期間が目立ちます。田舎の民家は、百年単位で使ってきたのに、新しい家の方が寿命が短い理由は、大量生産・大量消費の社会に合うように、住宅の持ち家政策が行なわれてきた結果です。資源の保護・ゴミを出さないという点からも、これからは国産材料長持ち住宅の時代です。

野田・建物の構造体の強さなど、安全がなければ安心して住めませんから、万が一の災害でも家が命と財産を守ってくれるように、設備機能の利便性だけではなく耐震性・防火などは第一優先です。次に間取りなどの使いやすさ、漆喰・無垢の板材など自然素材をとり入れることで健康に暮らせ、地球にやさしい街づくりにもつながります。それが心地よい住まいとなつて、愛着の持てる家となり大切に住まわれることで、結局長持ちする家となると思います。

野田・建物の構造体の強さなど、安全がなければ安心して住めませんから、万が一の災害でも家が命と財産を守ってくれるように、設備機能の利便性だけではなく耐震性・防火などは第一優先です。次に間取りなどの使いやすさ、漆喰・無垢の板材など自然素材をとり入れることで健康に暮らせ、地球にやさしい街づくりにもつながります。それが心地よい住まいとなつて、愛着の持てる家となり大切に住まわれることで、結局長持ちする家となると思います。

野田・建物の構造体の強さなど、安全がなければ安心して住めませんから、万が一の災害でも家が命と財産を守ってくれるように、設備機能の利便性だけではなく耐震性・防火などは第一優先です。次に間取りなどの使いやすさ、漆喰・無垢の板材など自然素材をとり入れることで健康に暮らせ、地球にやさしい街づくりにもつながります。それが心地よい住まいとなつて、愛着の持てる家となり大切に住まわれることで、結局長持ちする家となると思います。

### 「コロナ禍で見えた経済・社会の矛盾」

司会・今回の感染症の流行でどのような事を強く感じられましたか。

全世界で一億八千万人が感染し、四百万人の死者を出した新型コロナウイルス感染症はまだ終息しません。今回の感染症の流行から何を教訓として学び、今後の生活をどう改革・改善していくのか、住まいとくらしを中心に、関東建築ネットワーク加盟の設計グループ・コアの四名の建築士さんによる紙上座談会を開催しました。(敬称略 司会は事務局)

### SDGs(持続可能な開発目標)がめざす新しい社会は

司会・コロナ感染症の中で感じられたこと、それを乗り越える上で、国連が提起したSDGsを「住いづくり」の分野で進めていくことが大切だと思います。その点はいかがでしょうか。

最初に酒井さんから、SDGsが提唱された背景についてご説明をお願いします。(別掲参照)

## 温暖化防止、脱原発、資源を大切に

### 新しい時代の住いのありよう

#### 四名の建築士さんによる紙上座談会

それに伴い、住まいの価値観も異なってきたように思いました。野田・感染防止のためにステイホームが推奨される一方で、経済を動かすためリモートワークを行うしに今までの生活が一変しました。対面での仕事からリモートへ。メールをはじめ、ズーム会議やウェビナー(ウェブセミナー)、ユーチューブの利用など、仕事の仕方も多様になり、場所も自宅を含めていろいろなかろで可能となりました。

### 長持ちする家

司会・ここで提起している課題との関係で、長持ちする家が大切になってきますが、具体的にどのような取り組みをされていますか。

染谷・長持ちする家。私は、SDGsで言われている持続可能な家づくりを、考えています。そのため地盤、基礎・土台・柱・梁などの構造をしっかりとつくるのが重要だと思います。「こんな生活をした」という希望だけでなく、年齢や家族像の変化を想定することで、リフォームに対応し易くなります。配管や設備機器は、耐久年数や寿命のため、修理・交換を考慮する必要があります。2階の配管は、外壁の外に出す場合もあります。

野田・建物の構造体の強さなど、安全がなければ安心して住めませんから、万が一の災害でも家が命と財産を守ってくれるように、設備機能の利便性だけではなく耐震性・防火などは第一優先です。次に間取りなどの使いやすさ、漆喰・無垢の板材など自然素材をとり入れることで健康に暮らせ、地球にやさしい街づくりにもつながります。それが心地よい住まいとなつて、愛着の持てる家となり大切に住まわれることで、結局長持ちする家となると思います。

野田・建物の構造体の強さなど、安全がなければ安心して住めませんから、万が一の災害でも家が命と財産を守ってくれるように、設備機能の利便性だけではなく耐震性・防火などは第一優先です。次に間取りなどの使いやすさ、漆喰・無垢の板材など自然素材をとり入れることで健康に暮らせ、地球にやさしい街づくりにもつながります。それが心地よい住まいとなつて、愛着の持てる家となり大切に住まわれることで、結局長持ちする家となると思います。

野田・建物の構造体の強さなど、安全がなければ安心して住めませんから、万が一の災害でも家が命と財産を守ってくれるように、設備機能の利便性だけではなく耐震性・防火などは第一優先です。次に間取りなどの使いやすさ、漆喰・無垢の板材など自然素材をとり入れることで健康に暮らせ、地球にやさしい街づくりにもつながります。それが心地よい住まいとなつて、愛着の持てる家となり大切に住まわれることで、結局長持ちする家となると思います。

## SDGsとは何でしょう

SDGsは Sustainable Development Goals の略でエス・ディー・ジーズと読みます。2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」のことで、目標を達成するための具体的な169のターゲットと232の指標で構成されています。国連加盟国が2030年までに達成することが求められています。

### SDGsの17の目標

|                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| 1 貧困をなくそう                | 2 飢餓をゼロに        |
| 3 すべての人に健康と福祉を           | 4 質の高い教育をみんなに   |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう          | 6 安全な水とトイレを世界中に |
| 7 エネルギーをみんなに<br>そしてクリーンに | 8 働きがいも経済成長も    |
| 9 産業と技術革新の基盤を作ろう         | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 11 住み続けられるまちづくりを         | 12 つくる責任 つかう責任  |
| 13 気候変動に具体的な対策を          | 14 海の豊かさを守ろう    |
| 15 陸の豊かさを守ろう             | 16 平和と公正をすべての人に |
| 17 パートナリシップで目標を達成しよう     |                 |

(二面へ続く)

### 近くの山の木で家を建てる

司会・日本の住宅は輸入木材を多く使っています。輸送コスト、輸送エネルギーの抑制、山を守るという点で、近くの山の木で家を建てることは大切です。

酒井・汚染で悲鳴を上げている地球、大量生産、大量消費は大量のゴミを生み出しています。他の

甲田・「おかえりモネ」というNHKの朝ドラで森林組合の取り組みや、海や気象の関係が描かれています。本気で持続可能な循環というテーマ

甲田・「おかえりモネ」というNHKの朝ドラで森林組合の取り組みや、海や気象の関係が描かれています。本気で持続可能な循環というテーマ

近頃の山の木で家を建てる

近頃の山の木で家を建てる

近頃の山の木で家を建てる

近頃の山の木で家を建てる



柱梁、土台などの構造に、産の材木をつかいました。東京奥多摩



(一面よりつづく)

### 自然エネルギーを使い 省エネなソーラーハウスをもっと

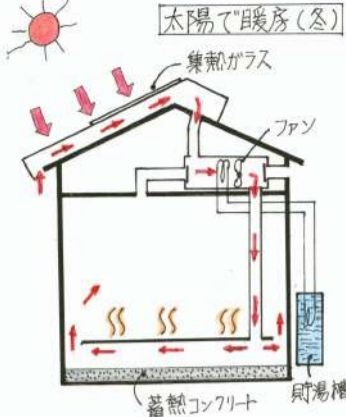
司会・自然エネルギーを住まいに取り入れ省エネを進めることは脱原発に繋がっていくと思いが、以前からソーラーハウスを進めている染谷さんのご意見と経験を伺いたいです。

染谷・空気集熱式ソーラーハウスは、1と言ったもので、ずいぶんと設計しました。(原理は左記のイラストを参照して下さい。)

外気利用で、乾燥には注意が必要ですが、同時に室内換気も出て喜ばれています。室内全体を対象とすることで、トイレや洗面所も温度差を少なくする事が出来ると喜ばれています。それも暫くすると気付かなくなってくる様です。気が付かないことこそ本当の心地良きなのかもしれません。

野田・出来れば、まず太陽光発電を取り入れたいですが、予算的になかなか難しいですね。インシャルコスト(初期費用)が高いので、別の手段を考えます。

司会・ありがとうございます。他の建築士さんも取り組まれています。お客様の反応はどうでしょうか。



屋根面に太陽で暖められた空気を床下に送り、冬は床暖房を行う。夏は外気を取り入れて涼しい。床下は蓄熱コンクリートになっている。

いで温熱環境を整えるシステムは快適さが実感でき

### 住いの温熱環境の改善は 高気密・高断熱の造り方で良いのか

司会・国は住宅の省エネ対策として、住宅の高気密・高断熱化を進めています。家の外皮(壁・天井・床下)の断熱・気密を強化し、室内の温度環境を外部からの影響を抑える、という考え方で。これには換気装置と空調設備が必要になります。果たしてこのような住いの造り方で良いのでしょうか。

酒井・今の断熱性能に頼る評価方法だけでは問題だと思えます。壁の中に断熱材を入れ、冬暖房を行うと壁の外壁側が冷やされて、結露が生じます。その為に室内の空気を壁の中に入れていない様にシートで室内全体を密封します。それが高気密・高断熱住宅です。

私は、室内を密封する事には疑問を感じます。熱の伝わり方には伝導、対流、輻射があり、熱の移動量の50%を輻射が占めています。太陽の恵みは太陽からの輻射熱です。夏の晴天の夜に冷え込むのは、宇宙空間に熱を放射している為です。

土蔵の中が夏でも冬でも温度変化が少ないのは置き屋根と呼ばれる二重の屋根が日射を遮り、土壁の熱を蓄える量が非常に大きいので、外の温度変化に影響されにくいからです。隙間だらけの昔の民家が囲炉裏や炬燵で生活できたのは、空気を温めるのではなく輻射熱で暖を取っていたからです。輻射と蓄熱性能をうまく利用し、室内を密封しないで、快適で省エネ

きるみたいです。

ころが違っています。

「高気密・高断熱」では壁或は開口部(窓)の性能について「開放的な住まい」は、住まいの空間の事を言っています。

かつての日本住宅の様な軒が深く内外に開放的な住まいは、窮屈さがなく住みやすいですが、断熱性が悪く寒かったり、隙間風があつたりでは、困ってしまいます。日本中を画的に考えるのではなく、かつて家の作り方も、弱点を改良し、地域・立地に合わせた方法を探り、住み易い家にする方法を考えます。

### リフォームも大切 住み慣れた住まいを長く使う

司会・大量生産、大量消費が見直され、物を大切に使う時代になってきます。住み慣れたリフォームが見直される時代と思えますが、皆様のご意見はいかがでしょうか。

野田・長年暮らし続けた住まいに、これからの安心して住み続けていくには、これから10年先、20年先30年先の暮らし方や住まい方(老朽化、家族構成の変化、不向き、介護対策など)を考慮して改善していく必要があると思えます。

どんな家でも、手を入れないと急速に劣化が進みます。建物の点検によって修繕時期を知ることが必要になります。特に木造は、腐らない限り補強取替など長持ちします。リフォームは新築同様に住む人の将来の生活イメージを造り上げていくことによって、快適に長く住みつけられる



「父が建て、私が育った家です。だから大切にしたい」との娘さんの意見で、新築でなく大規模リフォームになりました。

### すまじつくりで大切なことは

司会・最後に皆さんが家づくりで特に大切にしている事を紹介して下さい。

野田・住み慣れた家は、ユーザの価値観・住まい感・経済性など一つ一つ異なっていますので、住まいに求められるニーズは、今、まさに多様化しています。

これまでネットワークが培ってきた「自然・人・設計・技・つながり」の五つの大切が、ネットワークの住み慣れた住まいに生かされ、このコロナ禍アフターコロナにおいても住生活と住環境の向上に貢献でき、そのことが大切だと思います。

甲田・関東建築ネットワークのメンバーが持つ経験はお客様にとつての大きな価値だと思います。この経験豊富なメンバーが実績を交流しているのがネットワークです。家づくりで特に大切なことは新しい事柄はむしろ少ないです。やっぱりこれが大事だった、これをやってきて良かったという実績が宝物です。ここを大切にしたいと思っています。

酒井・家づくりにはその人の生き方が現れるものがあります。個人的なことでもあり、社会的なことでもあり、また技術的でも

無料住宅相談会開催します

9月25日(土)・26日(日)

9時~15時

会場 全国教育文化会館  
エデュカス東京

新築、増改築、リフォーム、耐震……。住いのことならなんでもご相談ください。詳しくは事務局0120-800-155もしくはホームページをご覧ください。

結成30年 経験豊富 実績多数

暑中お見舞い  
申し上げます



人と環境にやさしい住いづくりは関東建築ネットワークへ